

**【2023年版】
オンプレミスorクラウド？ クラウド移行に伴う課題・意識調査**

2023/3

株式会社 日立製作所
サービス&プラットフォームビジネスユニット

Contents

1. 調査背景と概要
2. 調査した内容
3. 調査結果レポート
4. 日立のハイブリッドクラウドソリューション
EverFlex from Hitachiのご紹介

1. 調査背景と概要

- **調査目的**

大手企業によるハイブリッドクラウドソリューション運用状況の実態調査

- **調査期間**

2023年1月実施

- **調査方法：**

クローズドアンケート調査（インターネット）

- **調査対象者：**

年商100億円以上の会社に勤務している方（日立製作所を除く）

- **有効回答者数：210人**

- **設問数：15問**

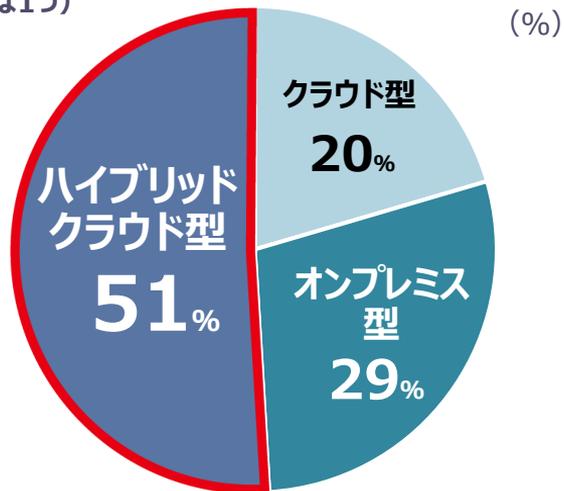
2. 調査した内容

- Q1 サーバーやデータストレージ環境の実態と理想
- Q2 オンプレミス型のメリット
- Q3 クラウド型のメリット
- Q4 ハイブリッドクラウド型のメリット
- Q5 サーバーやストレージ環境の課題
- Q6 サーバーやデータストレージ環境について今後最も優先したい事
- Q7 サーバーやデータストレージ環境について今後最も期待すること
- Q8 クラウド移行の現状
- Q9 クラウドサーバーへ全面移行すると想定した場合の課題
- Q10 クラウドサーバーへの移行が実施できるようにするための対策
- Q11 ハイブリッドクラウドへ移行すると想定した場合の課題
- Q12 ハイブリッドクラウドの今後の予想

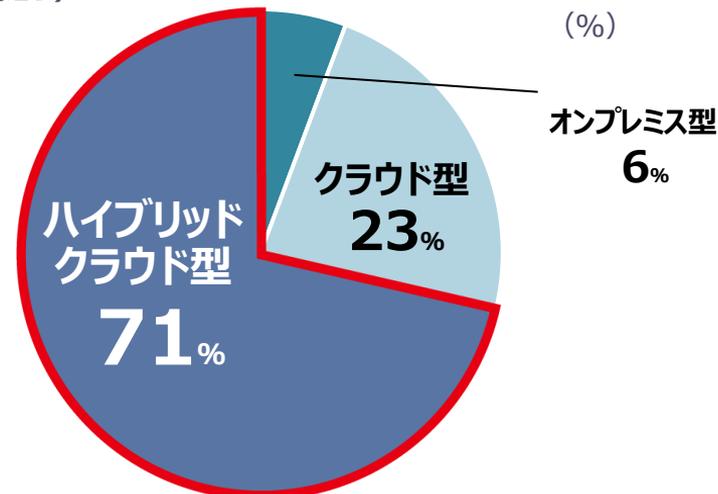
3. 調査結果レポート

3-1 サーバーやデータストレージ環境の実態と理想

Q1-1 あなたの会社のサーバーやデータストレージ環境として、最も当てはまるものを教えてください。(お答えは1つ)

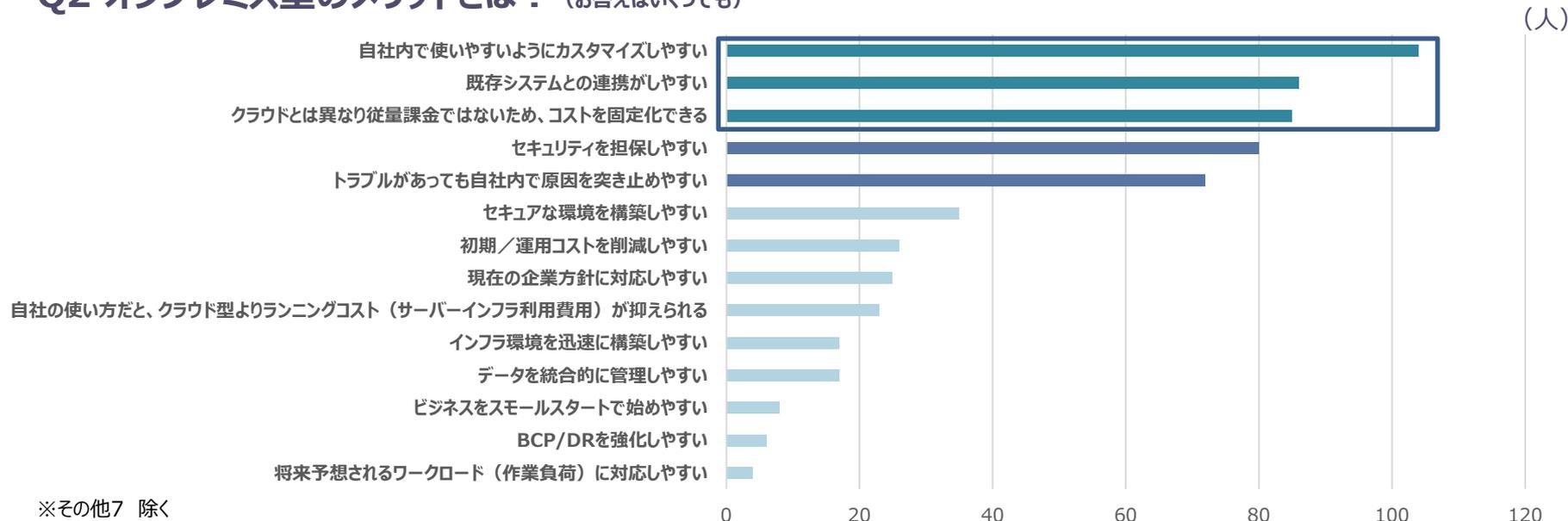


Q1-2 サーバーやデータストレージ環境について、一番理想的なのはどの型だと思いますか？(お答えは1つ)



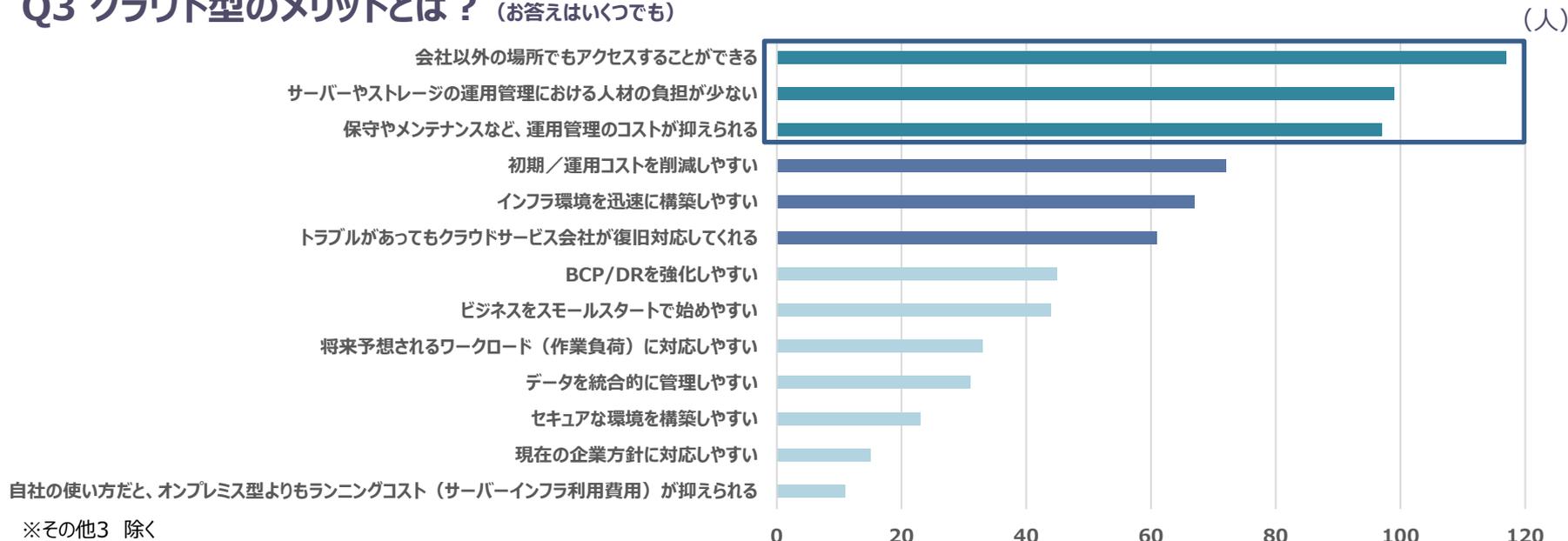
現状のサーバーやデータストレージ環境を聞いたところ、51%がハイブリッドクラウド型という結果となった。さらに、一番理想的な型も聞いたところ、ハイブリッドクラウド型が71%と最も多くなっている。現状と理想で20%差があることから、**オンプレミス型を脱却してハイブリッドクラウド型へと移行したいと考えるユーザーが増えていることが分かります。**

Q2 オンプレミス型のメリットとは？（お答えはいくつでも）



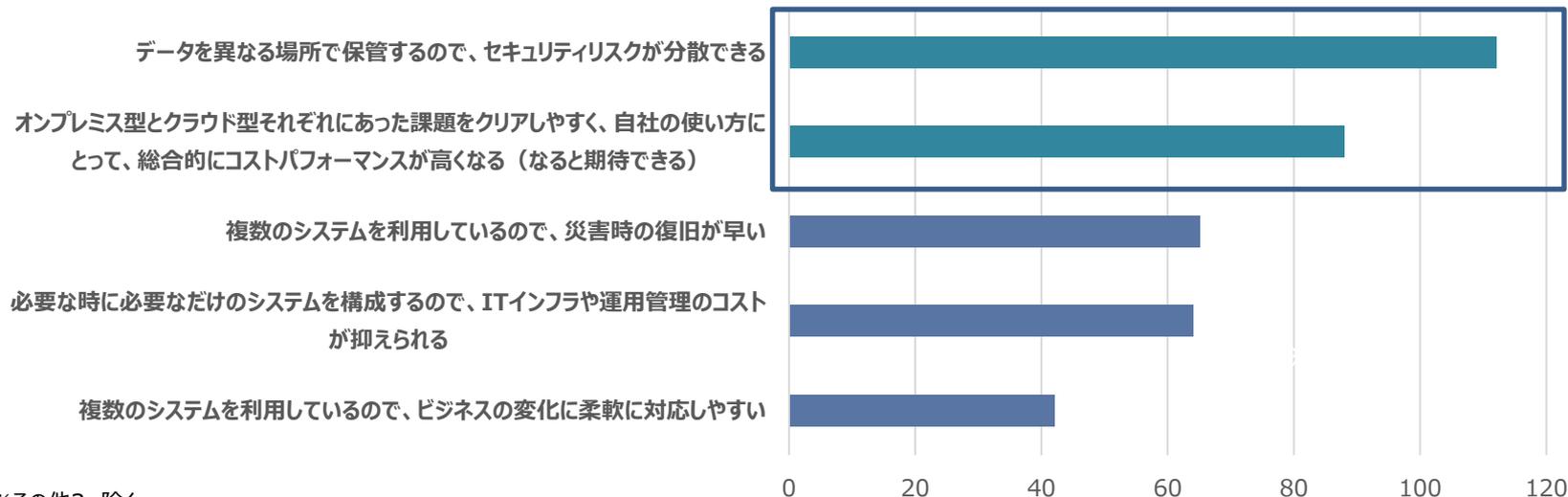
オンプレミス型のメリットとしては、「自社内でカスタマイズしやすい」「既存システムと連携しやすい」「コストを固定化できる」という項目に回答が多く集まった。これらの回答から、**オンプレミス型のメリットを自社独自のシステム環境に対する親和性の高さに見出していると考えられる。またセキュリティ面に関しても票が集まっており、オンプレミス型に信頼性を期待していることが想定される。**

Q3 クラウド型のメリットとは？（お答えはいくつでも）



クラウド型のメリットとしては、「会社以外の場所でもアクセスできる」に最も回答が集まった。続いて「運用管理における人材の負担が少ない」「運用管理のコストを抑えられる」が挙げられた。このことから、**運用管理に関する負担が軽減できることをクラウド型のメリットだと考えている人が比較的多いと考えられる。**

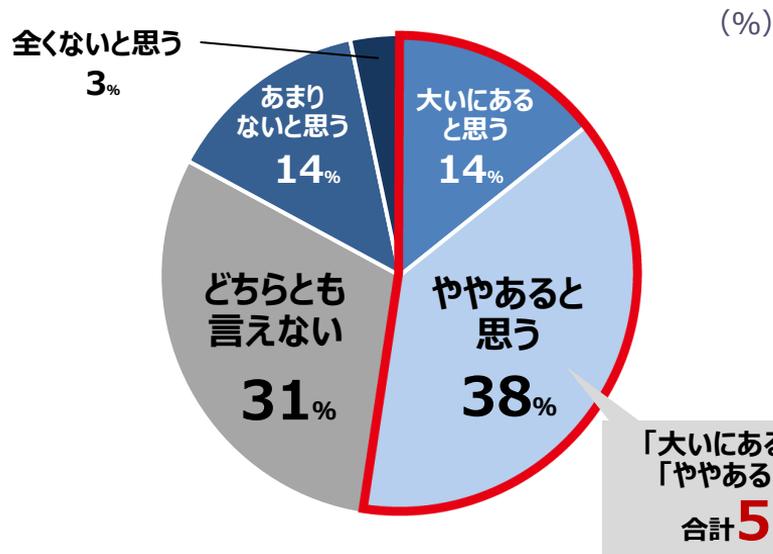
Q4 ハイブリッドクラウド型のメリットとは？（お答えはいくつでも）



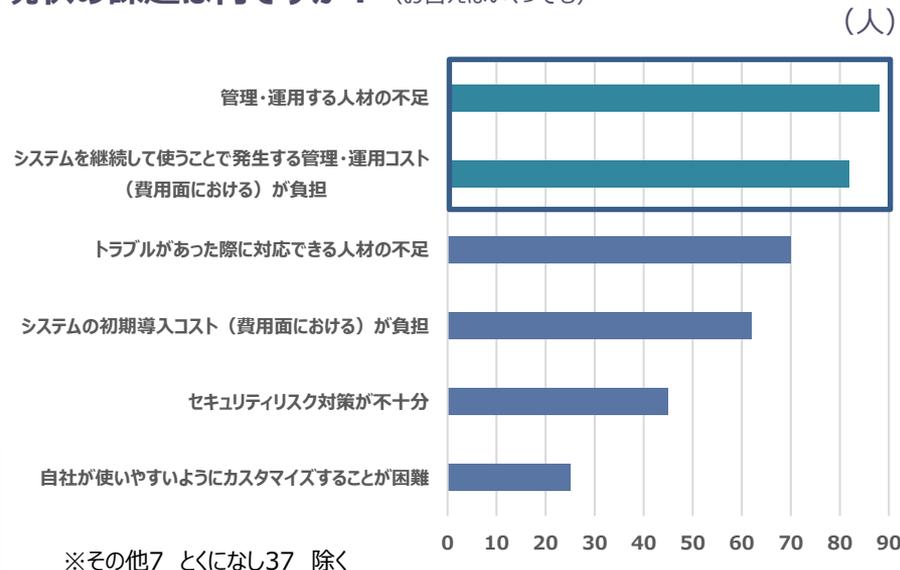
※その他3 除く

ハイブリッドクラウド型のメリットは、「セキュリティリスクが分散できる」「オンプレミス型とクラウド型のそれぞれの課題をクリアしやすい」という項目に、票が多く集まった。オンプレミス型とクラウド型を組み合わせたことにより、**セキュリティ面での不安が低減され、運用管理の最適化・コストの最適化がはかれることがメリットだととらえられている。**

Q5-1 あなたの会社のサーバーやデータストレージ環境に、課題はあると思いますか？（お答えは1つ）

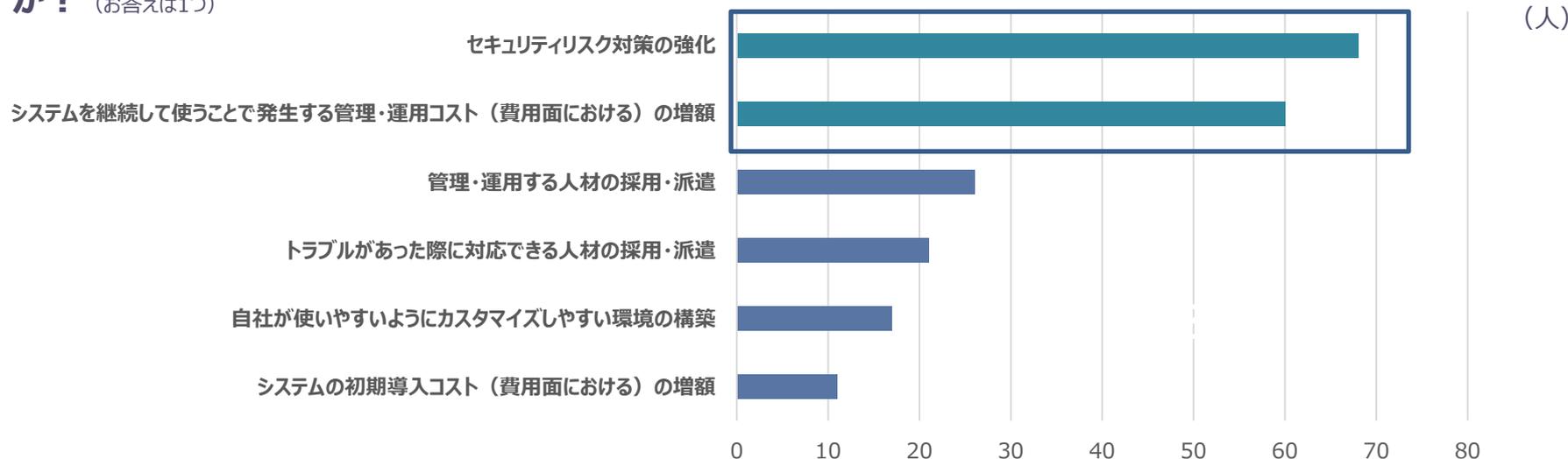


Q5-2 あなたの会社のサーバーやデータストレージ環境の、現状の課題は何ですか？（お答えはいくつでも）



サーバーやストレージ環境に課題があると考えている企業は、合計52%と半数を超える結果となった。そして課題の内容としては「管理・運用する人材の不足」「管理・運用コストの負担」など、**管理運用面の負担を挙げる回答が多く集まった。**

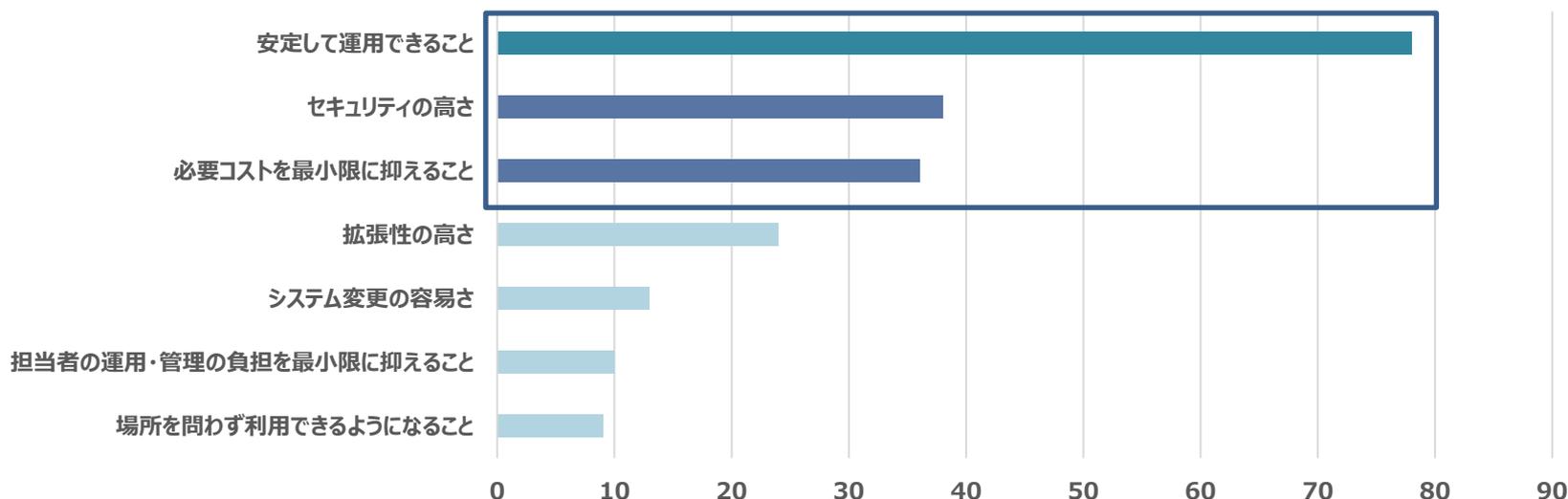
Q6 あなたの会社のサーバーやデータストレージ環境について、今後最も優先したいことは何ですか？（お答えは1つ）



※その他7 除く

サーバーやデータストレージ環境について今後最も優先したいこととしては「**セキュリティリスクの強化**」「**システムを継続して使うことで発生する管理・運用コストの増額**」が特に多い結果となった。今後この2つの項目はますます重要視されると考えられる。

Q7 サーバーやデータストレージ環境に最も期待することは何ですか？ (お答えは1つ)

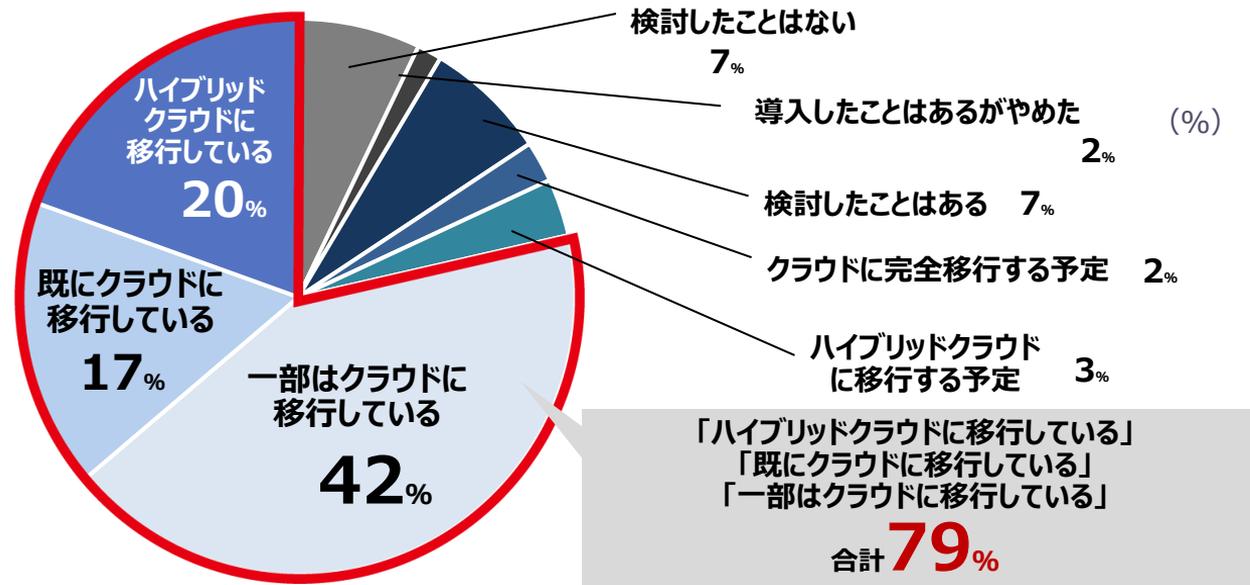


(人)

※その他2 除く

サーバーやデータストレージに最も期待することとしては、「安定して運用できること」に最も回答が集まった。その他「セキュリティの高さ」や「必要コストを最小限に抑えること」が続く。管理運用側として、日々不安なく稼働することが重視されている。

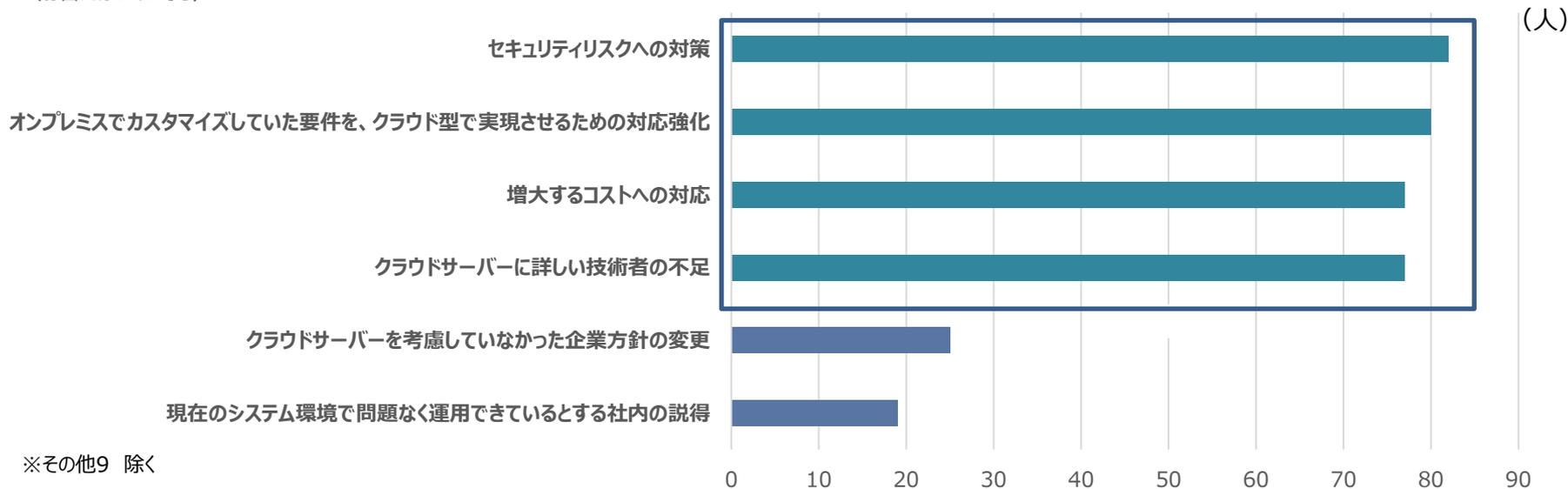
Q8 あなたの会社では、クラウド移行についてどのような段階にありますか？（お答えは1つ）



現在一部でもクラウドに移行している企業の合計は79%。今回調査をした企業の大半はクラウドを活用している。また今後クラウド、もしくはハイブリッドクラウドに移行する予定の企業もいるので、**今後もますますクラウド活用が主流になりそうだ。**

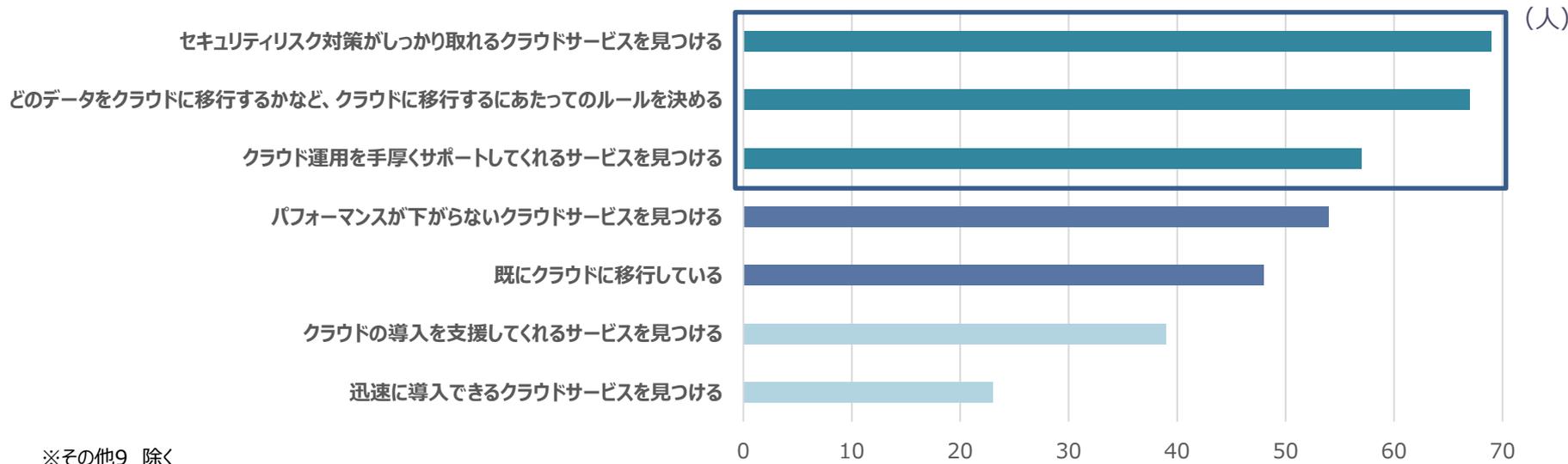
Q9 あなたの会社がクラウドサーバーに全面移行すると想定した場合の、課題は何ですか？

(お答えはいくつでも)



クラウドサーバーに全面移行する場合の課題としては「セキュリティリスクの対策」「オンプレミスでカスタマイズしていた要件をクラウドで実現させるための対応強化」「増大するコストの対応」「クラウドサーバーに詳しい技術者の不足」に票が集まった。このようにクラウドサーバーへの移行に関する課題は多岐に渡るため、企業によっては検討に時間を要するため、クラウドサーバーへの全面移行を実現するのは難易度が高いと考えられる。

Q10 どのような対策を行えば、クラウドへの移行が実施できると思いますか？ (お答えはいくつでも)

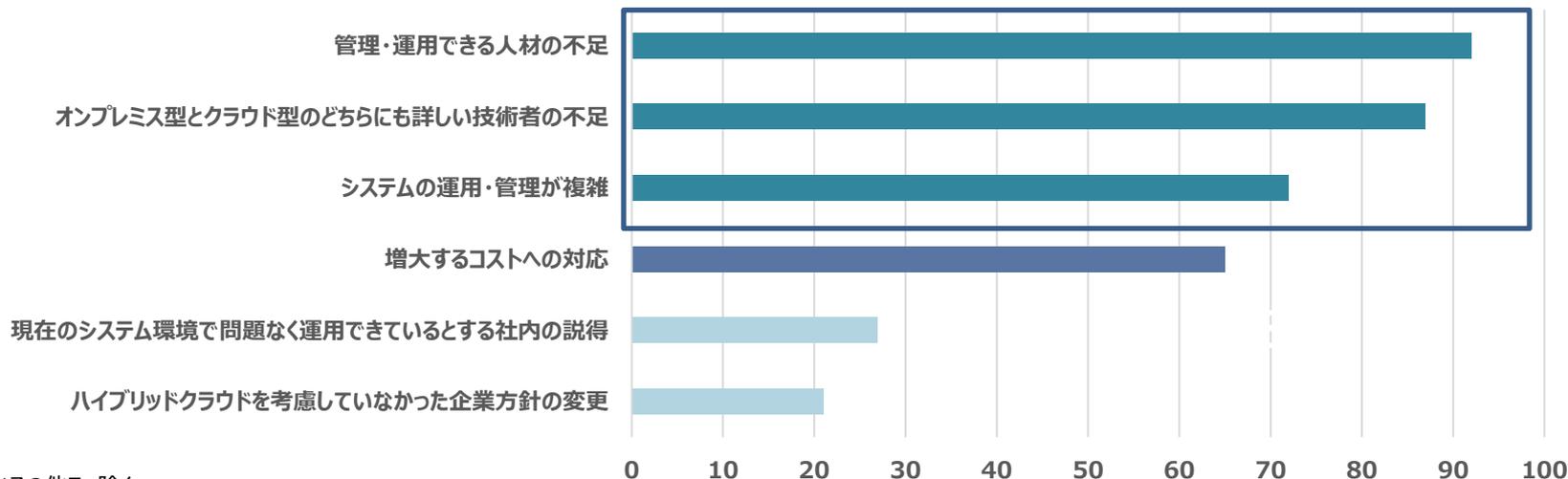


どのような対策を行えばクラウドへの移行が実施できるか聞いたところ「セキュリティ対策がしっかりとれるクラウドサービスを見つける」に最も票が多く集まった。その他「クラウドに移行するにあたってのルールを決める」「クラウド運用を手厚くサポートしてくれるサービスを見つける」も挙がった。このように、**クラウド移行を実施するにはたくさんの対策が必要だと考えられる。**

Q11 あなたの会社がハイブリッドクラウドに移行すると想定した場合の、課題は何ですか？

(お答えはいくつでも)

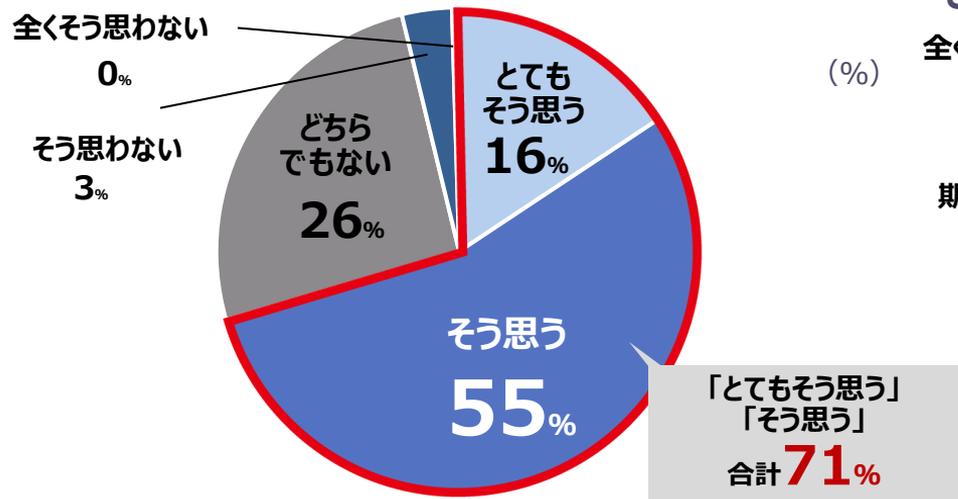
(人)



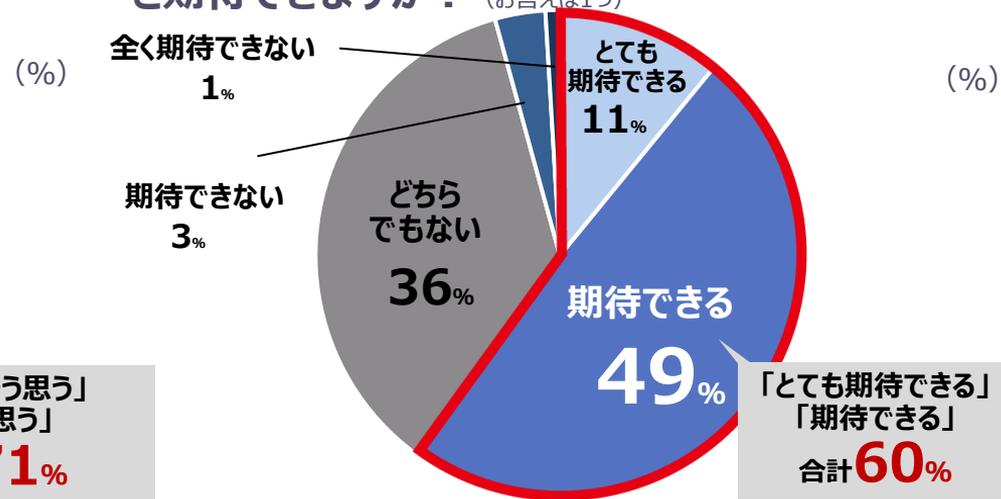
※その他7 除く

ハイブリッドクラウドに移行する場合の課題は「管理運用できる人材の不足」「オンプレミス・クラウド型両方に詳しい技術者の不足」「システムの運用・管理が煩雑」が上位となった。このようにハイブリッドクラウド型の課題として専門的人材の不足が挙げられている。この課題を解決するためには、外部の専門リソースの支援が必要だと考えられる。

Q12-1 ハイブリッドクラウドは今後普及していく
と思いますか？ (お答えは1つ)



Q12-2 世の中のハイブリッドクラウドが進化する
ことによって、あなたの会社にもよい影響がある
と期待できますか？ (お答えは1つ)



ハイブリッドクラウドが普及していくかについては「とてもそう思う」「そう思う」との意見の合計が71%という結果に。そしてハイブリッドクラウドが進化することはよい影響があると期待できるか聞いたところ、「とても期待できる」「期待できる」の合計は60%であり、**ハイブリッドクラウドのさらなる浸透が予見される。**

現状

導入形態はハイブリッドクラウド型が51%となっており、最も多くなっている。一番理想的な型はハイブリッドクラウド型が71%と最も多くなっている。近年ますます注目されている形態である。現在一部でもクラウドに移行している企業の合計は79%を占める。

課題

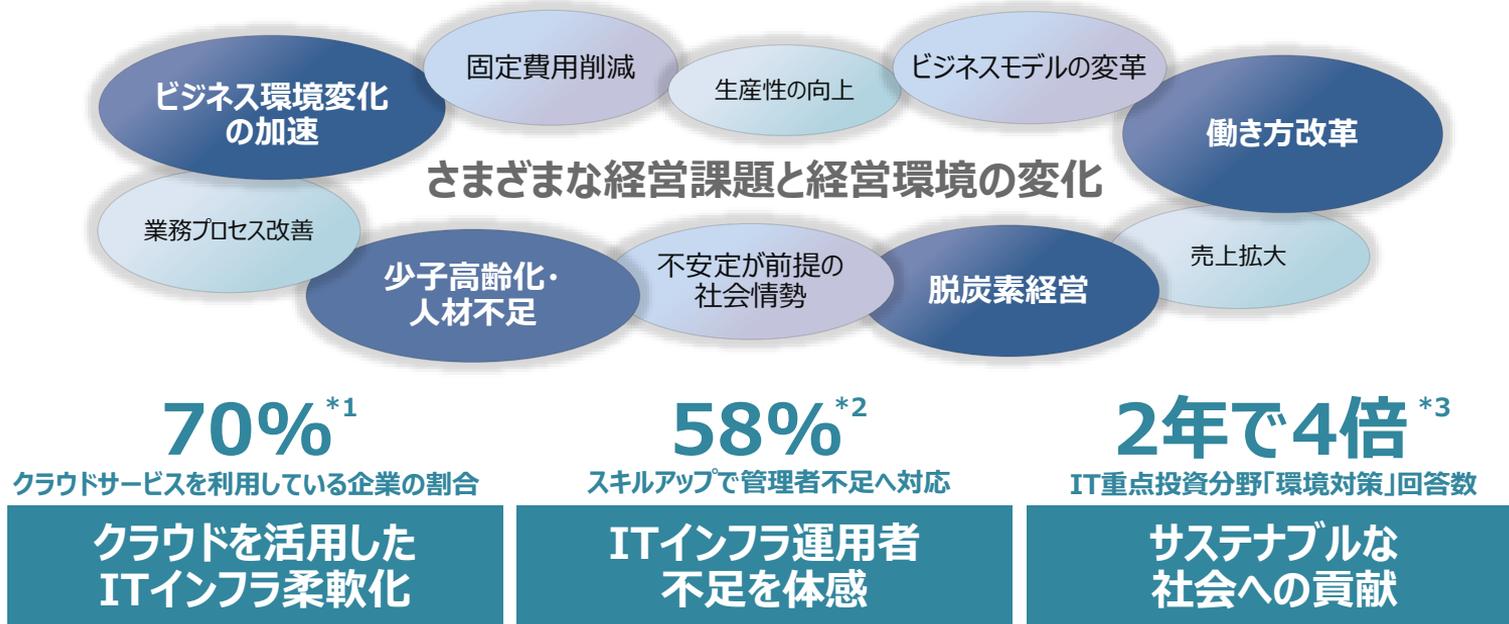
サーバーやストレージ環境に課題があると考えている企業は52%と半数を超える。課題の内容としては人材の不足、管理・運用コストの負担の項目が特に多くなっている。ハイブリッドクラウドに移行する場合の課題は、管理運用できる人材の不足、オンプレミス・クラウド型両方に詳しい技術者の不足、システムの運用・管理が煩雑であることが上位となっている。

結論

ハイブリッドクラウド型は他の形態の課題をクリアしやすい。
移行の際は人材の不足などの課題もあるが、外部サポートを受けるのも手段の一つ

クラウド型に比べてハイブリッドクラウド型は、運用管理の最適化・コストパフォーマンスの最適化が図れることなどから理想的な環境だと考えられている。ハイブリッドクラウド型の普及はさらに進むと考えられるが、専門的人材が不足していることから移行に時間がかかることが想定される。その課題を解決するには、管理運用ができる外部のサポートを受けるのも一つの手。

4. 日立のハイブリッドクラウドソリューション EverFlex from Hitachiのご紹介



コロナ禍において低下しがちな従業員エンゲージメントを高め
ビジネス変化への対応力を備え社会的責任を果たすことが求められています

出典：*1：「令和4年版情報通信白書」（総務省）より作成 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf306000.html#d0306220>

*2：IDC Source：IDC's Japan Storage Demands Study 2022, January 2022 (n = 700)「管理者不足が課題と回答した企業の回答」

*3：IDC September 2022、グリーントランスフォーメーション（GX）時代の新たなストレージの姿とは

クラウドを活用したITインフラ柔軟化

構築・ランニングコスト
を抑えたい

変化に柔軟に
対応したい

ITインフラ運用者不足を体感

スキルの習得が
追い付かない

スキルの分だけ
人を増やせない

サステナブルな社会への貢献

IT自身の
低消費電力化

IT利活用での
脱炭素促進

求められているのは
クラウドの柔軟性(スピード・コスト)を備え、運用面の不安を軽減し、
サステナブルな社会を支えるITシステム



迅速・柔軟

クラウド活用



適切なコスト

適材適所な業務配置



安心・安全

日立独自の高信頼化



脱炭素化

CO₂排出量見える化

日立は4つのキーワードでクラウドファースト時代には選ばれる
ITインフラを提供してまいります



EverFlexはas a Service型データ基盤サービスや多彩なデジタルITインフラソリューションを適切に組み合わせて実現するハイブリッドクラウドソリューションのブランドです。

ビジネス変化への対応力を備える

- クラウドだけでは不十分なIT要件を高信頼・高可用なオンプレミスの併用で達成
- 可用性向上追求で実現する安定したITインフラと、国内品質の障害対応でお客様がDXに集中できるIT環境の構築をご支援

従業員エンゲージメントを高め社会的責任を果たす

- ITインフラ運用の標準化・自動化でワークライフバランスを実現
- コンサルティング～計測・分析～削減プラン提案でシステム全体のCO₂削減&効果を見える化し、お客様の環境経営目標を具体化・GX実行に貢献



オンプレミスもクラウドも 日立にお任せ



すぐに使えて 使った分だけお支払い

- お客さまが指定する任意のデータセンター上でサービスを提供
- 利用するリソースは従量課金にてお支払い*3

クラウドの可用性向上と 安心の障害対応



クラウドでも 高稼働率を実現

- 長年基幹業務を支えてきた高信頼ストレージの技術をクラウドに適用することでクラウドの可用性を向上*1
- 障害を抑制し、管理業務軽減・想定外の業務を極小化

ITインフラ・サービスも 環境に配慮



CO₂排出量 年間35%削減*2

- サービス・ソリューション製品の全ライフサイクルの環境負荷を算定
- 管理ポータルからCO₂排出量の時間変化・累積量の確認



ビジネスのアジリティ向上



管理業務軽減・
働き方改革に貢献



脱炭素社会実現への貢献

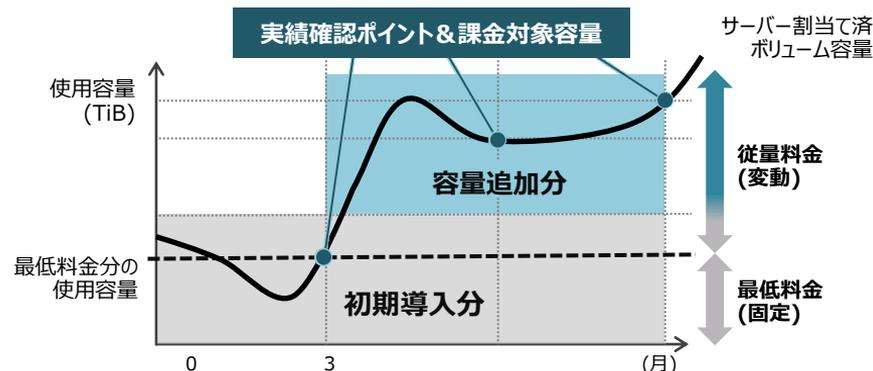
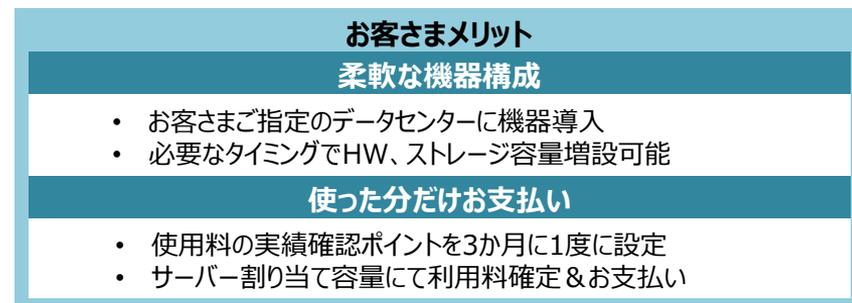
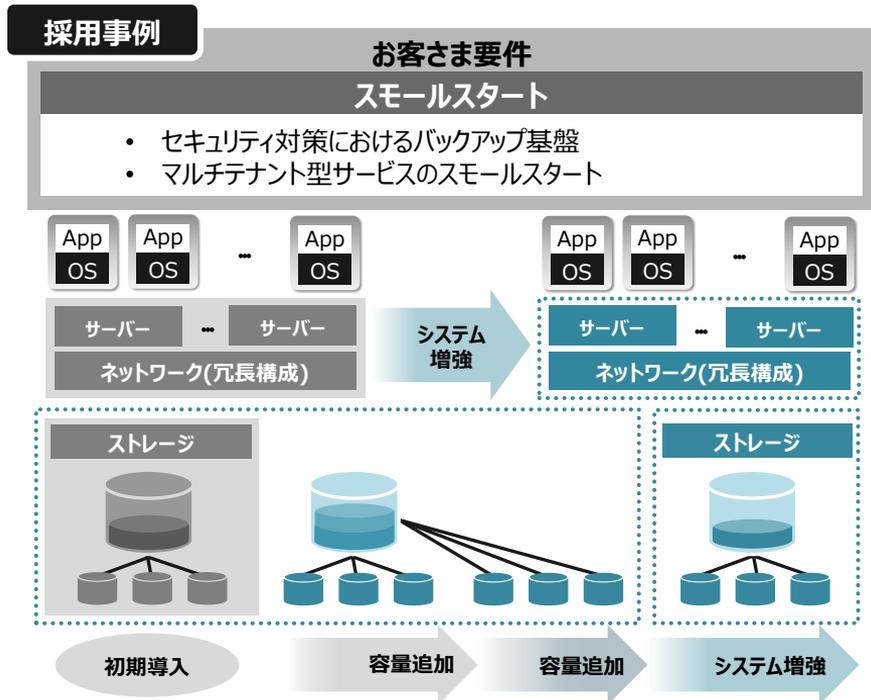
*1 開発中の製品仕様に基づく試算であり、変更となる可能性があります。

*2 サービス・ソリューションの導入で、年間CO₂排出量35%削減。詳細は以下のWebページをご確認ください。(環境負荷要因は評価条件や評価モデルにより値が異なります。)
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/sustainability/environment/co2-reduction/everflex.html>

*3 詳細は各サービスのサービス仕様書を確認ください

4-6 さまざまなお客さまにご採用いただいています

2006年にマネージドサービスを開始、国内メガバンク含む金融業界を中心に稼働。
提供範囲拡大、従量課金対応、ハイブリッドクラウドへの拡張、と
「今お客さまが求めるITインフラへの価値」をご提供させていただいています。



EverFlex from HitachiはITインフラ事業を通じて、 お客様のDX・GXに貢献いたします

ビジネスアジリティ向上によるビジネス変革

働き方改革による従業員エンゲージメントの向上

脱炭素社会実現への貢献によるお客様企業価値の向上

EverFlexの詳細はこちら

<https://www.hitachi.co.jp/everflex/>



- EverFlexは、Hitachi Vantara LLCの登録商標または商標です。

END

【2023年版】年商100億以上の大手企業のシステム担当者に聞いた！
オンプレミスorクラウド？ クラウド移行に伴う課題・意識調査

2023/3
株式会社 日立製作所
サービス&プラットフォームビジネスユニット



Hitachi Social Innovation is
POWERING GOOD